名医に聞く！

臼蓋形成不全と寛骨臼回転骨切り術

変形性股関節症の6割は臼蓋形成不全が原因
変形初期の股関節症には自己関節を温存する回転骨切り術が有効

臼蓋形成不全は、女性に多く乳幼児の頃の健診で発見されることもあります。股関節に痛みを感じたり、変形が初期で、さらに変形の進行が予想される場合は、よく適応を見極めて寛骨臼回転骨切り術を行います。

先天的な関節の異常も多い 臼蓋形成不全

股関節は大腿骨と骨盤で構成されています。大腿骨の付け根を大腿骨頭と呼び、骨盤側にはそれを受けるお椀型の寛骨臼があります。臼蓋形成不全とはこの寛骨臼の骨盤側の覆いが不十分な状態をいいます。この状態が長く続くと、軟骨がすり減り、変形性関節症を発症します。

整形外科医としてこれまで850例の寛骨臼回転骨切り術を行った「いしずえ整形外科」の大久保俊彦院長は次のように話します。

「臼蓋形成不全は乳幼児健診で、発見されることが多いですが、まれに気づかれないまま成長してしまうケースもあります。臼蓋形成不全を原因とする変形性股関節症は実に多く、約6割と言われています。変形の進行には、前期、初期、進行期、末期の4段階があり、前期や初期には適切な関節運動により股関節への負担を減らす保存治療も行いますが、変形の進行が続く場合は根本的な治療の選択として手術を考えます」

自己の関節を温存する 利点が多い「寛骨臼骨切り術」

変形性股関節症を治療する手術には、いくつか種類がありますが、骨切術の代表的な手術が「寛骨臼骨切り術（RAO法）」です。

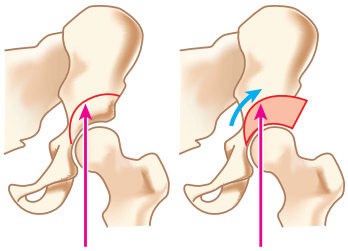
「これは大腿骨頭を受けるお椀型の寛骨臼の一部をくり抜き、外側に回転させるようにずらして、大腿骨を覆う屋根を広げる手術です。CT画像を元にシミュレーションを導入するなど、より精度の高い骨切りと回転が可能になっています」

関節の変形が進み関節が完全に壊れてしまった場合は、人工関節置換術が適応になります。変形性股関節症は男性よりも女性に多く、若い患者も少なくありません。人工関節の耐用年数は長くとも20～30年程度ですから、若い時に人工関節の手術した場合、高齢になってから、再手術が必要になってきます。再手術は難しい場合も多いので、手術の際の年齢は注意すべきです。

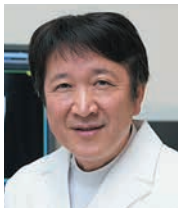
「若い方で股関節の変形が初期の場合には回転骨切り術を推奨します。人工関節は破損や骨との固着性の問題などのリスクがありますが、この手術は自分の関節を温存することで、本来の軟骨組織を残すことができ、感染や脱臼の心配もほぼありません。骨癒合が進めば自然に脚の機能が回復し、生来正常であるべき関節に近ずきます。」

変形の初期を見逃してしまうと回転骨切り術は長期に有効な手術ではなくなってしまうため手術を行うタイミングが大切です。

寛骨臼回転骨切り術 RAO法



DOCTOR



いしずえ整形外科院長
NPO法人骨・関節研究会代表
大久保俊彦 先生

杏林大学医学部卒業後、日本医科大学麻酔科、横浜市立大学整形外科、関東労災病院、大口東総合病院整形外科部長、西横浜国際総合病院関節外科センター長を経て、いしずえ整形外科を開院。

関節手術は4000例以上（1998～2015年）
豊富な経験を礎（いしずえ）に迅速で的確な治療を

JR戸塚駅から徒歩1分のいしずえ整形外科が開院したのは2011年8月。開院から6年を迎える来年には新築ビルへの移転を予定している。患者の立場に立ち迅速で丁寧な治療が評判を呼び、毎月の外来数は3000人を超えている大久保俊彦院長に話をうかがう。

院長 **大久保 俊彦**

おおくぼ・としひこ／1983年杏林大学医学部卒業後、日本医科大学麻酔科や横浜市立大学整形外科、横浜市民病院、関東労災病院、横浜南共済病院への勤務、大口東総合病院整形外科部長、西横浜国際総合病院関節外科センター長を経て、いしずえ整形外科を開院。92年に横浜股関節研究会、2007年にNPO法人骨・関節研究会を設立。

整形外科全般の疾患を治療しつつ変形性股関節症の手術治療を極める

いしずえ整形外科の大久保俊彦院長は、30年にわたって関節疾患の治療に携わり、4000件もの手術経験をもつ。駅に隣接しアクセスもよいため遠方からの来院も多い。

「〝いしずえ〟という名称には、この場所から私のめざす医療を発展させたいという思いを込めました。」と大久保院長。

実績は関節手術の中でも人工膝関節手術と人工股関節手術が多く、総手術数は5500例にも及ぶ。

関節疾患から腰痛、肩痛、スポーツ障害まで扱う疾患は幅広く、原因を突き止め速やかに痛みを取り除くことに努める。

「臼蓋（きゅうがい）形成不全を原因とする変形性股関節症は、手術を行うタイミングが非常に重要です。変形初期の場合、患者さんの痛みも周期的なために手術のタイミングを逃すことも少なくありません。私はこれまで、約800例の寛骨臼（かんこつきゅう）回転骨切り術を行ってきました。ですから、患者さんの状態を診断してどの段階で手術に踏み切るか、具体的にどのような位置に関節を回転し移動させるかを適切に判断してきました」

変形性関節症やリウマチが原因で関節破壊が進んだ場合は、人工関節置換術を実施。入院期間は2～4週間と長めに設定し術後の感染症のリスクがないか、血液検査などの確認を慎重に行い、しっかりとリハビリも実施したうえで退院させる過程を重視している。

人工股関節置換術2500例の実績をもつ大久保院長。

術後の運動機能向上のためにエクササイズも指導

大久保院長はNPO法人「骨・関節研究会」代表も務め、理学療法士とフィットネスインストラクターと協同して考案した〝メディカル・リハ・フィット〟を実施。気軽に楽しみながら体幹とバランス感覚を鍛えるエクササイズの指導にも力を入れる。

「もともとは手術後にもっと運動ができるようになりたいという患者さんの声に応えてオーダーメイドの運動プログラムを作成してきました。現在、退院後も関節機能を向上させるエクササイズに参加いただいてます」

来年7月には、近くに完成する新ビルへの移転を予定しており、MRIも導入するという。

「移転先ではMRIを待たずに受けられますから、より的確に診断し迅速な治療が可能です」と来年は治療の環境も整い、さらに多くの患者に頼られる「高度な医療を提供する」医院になりそうです。

リハビリスタッフ

術後の患者を中心に気軽に楽しみながら運動機能を向上させるエクササイズ（メディカル・リハ・フィット）を実施している。

Hospital Data

いしずえ整形外科
大久保機能再建クリニック&リハビリテーション

所在地	横浜市戸塚区戸塚町16-12 フタバヤビル501
電話	045-881-1188
URL	http://www.ishizue-seikei.com